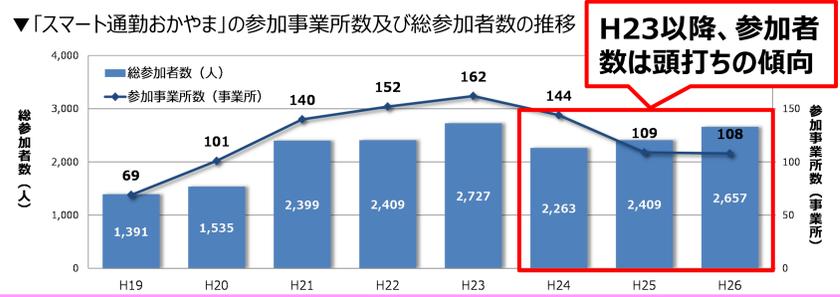


1. これまでの状況と課題



【これまでの経緯と課題】

- CO2排出の削減、渋滞の緩和等を図り都市圏で一斉にマイカー通勤を控える取り組み
- Web化以降の参加事業所数が減少している（登録手間等のハードル）
- 参加者数は頭打ちの傾向がみられる
- H26は実施期間2ヶ月としていたが、アンケート結果では参加しやすい期間は1週間であった

【H27実施方針】

- 参加者数の増加
⇒過去の取り組みの課題を踏まえた参加ハードル解消
- 岡山のまちづくりに寄与する取り組みへ
⇒取り組みの意義・目的の明示による、動機づけ強化
⇒コラボレーション・取り組みの相互活用
- より参加したくなる、楽しめる工夫
⇒各種まちづくり施策や、他地域事例を踏まえて

2. 取り組み概要

これまでの取り組みを発展させ、新たに行政担当者による事業所訪問営業、スマート通勤に合わせて参加・実践できる関連施策の周知、市長による自転車通勤デモンストレーションや参加事業所に対する岡山市長・倉敷市長の表彰等、参加を動機づける多様なコミュニケーション戦略を展開した。

項目	内容
対象者	岡山県内の事業所へ普段から自動車通勤をしている方（普段からスマート通勤をしている方も対象）
実施期間	H27.10/5（月）～10/9（金）の平日5日間
募集方法	岡山都市圏の主要事業所 ⇒ 郵送により参加依頼 個人参加 ⇒ 今年度一新したポスターの掲示・広報誌等により広く募集
参加方法	参加者がwebと紙面で結果を入力（スマホ対応）
その他	参加者が楽しめるコンテンツ ⇒ ランキング、メールニュース、表彰



親しみやすいロゴやキャラクターを作成し、ポスターデザインを一新。他の広報資料にもデザインコンセプトを反映した。

参加案内資料

- チラシ裏面
⇒スマート通勤実施による参加者のメリットについて、チラシの裏面に分かりやすく記載した。
- 実施結果記入票
⇒紙面参加に対応し参加者が記入する実施結果記入票を同封した。実施を促すため、取り組みの意義を冒頭に記載した。
- その他
・市長顔写真入りの依頼文書
・参加方法の説明
・事業所参加登録票
・担当者アンケート

▼依頼文書 ▼参加登録票 ▼担当者アンケート

▼チラシ裏面 ▼チラシ裏面 ▼実施結果記入票

メールニュース

⇒9/18～10/28の期間で全7回のメールニュースを登録された担当者・従業員へ配信。
 ⇒各回で時期に合わせたターゲットとねらいを設定して配信。
 ⇒岡山市保健所、都市整備局交通政策課、都市整備局庭園都市推進課に執筆を依頼し、スマート通勤に関連した市内の他施策の情報提供を行った。

▼メールニュース本文 ▼記載した他の施策

実施結果資料

⇒参加事業所全てに実施結果の資料を送付。
 ⇒実施結果はCO2の排出削減量等を分かりやすく記載している。
 ⇒実施結果や感謝状は参加事業所のHP掲載等によりCSR活動のPRとして活用されている。

▼お礼状 ▼全体結果 ▼感謝状 ▼事業所実施結果

実施期間前 **実施期間中 (10/5-9)** **実施期間後**

事業所個別訪問

⇒大規模な事業所を中心に個別訪問による参加依頼を実施（15社）
 ⇒訪問には趣旨説明資料を持参。内容は事業所の参加を促すようなCSRのPRや社員の健康づくりに関する記事を載せた。

▼事業所説明用資料

市長によるデモンストレーション

⇒スマート通勤の取り組みをPRするため岡山市市長自ら車から自転車に転換し、登庁した。
 ⇒新聞にも取り上げられた。

▼新聞記事

アワード表彰式

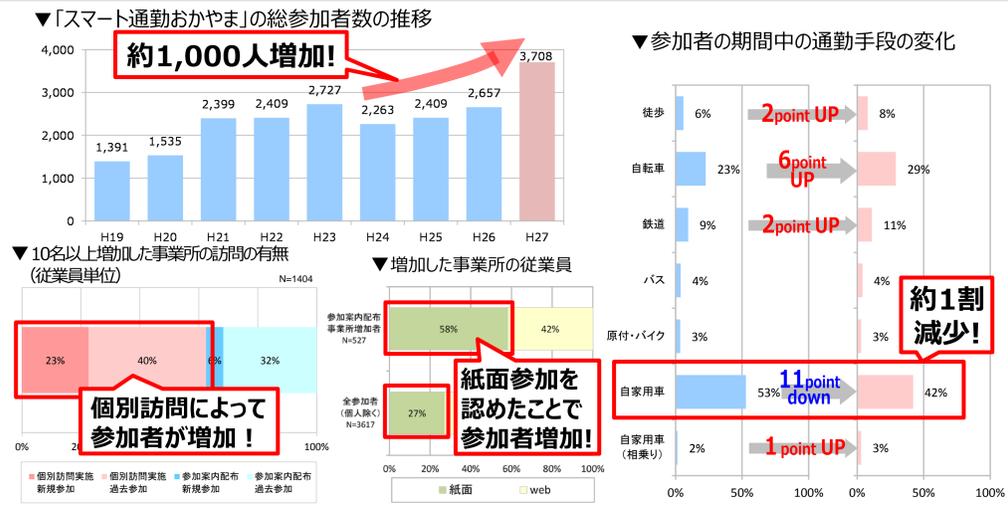
⇒積極的に取り組んだ事業所を表彰した。（計9社）
 ⇒岡山市長・倉敷市長による表彰を実施。
 ⇒大賞・部門賞のそれぞれで表彰状を作成。
 ⇒新聞にも取り上げられ、受賞事業所はHP等への記載によりCSR活動のPRに活かしている。

▼表彰式の様子 ▼表彰状 ▼新聞記事

3. 実施結果

H27実施結果の概要

- ・3,708名が参加。昨年度より約1,000人増加し、過去最大。
- ・主な増加の要因として事業所個別訪問による参加依頼や紙面による参加方法追加が挙げられる。
- ・期間中は自家用車が1割減少し、他の交通手段が約1割増加。特に自転車への転換が多かった。



参加事業所・参加者の感じた効果



実施者の声 (参加者アンケート自由意見)

○運動・リフレッシュについて

「自転車で風を切って進んでいると、ストレスが薄らぎ、全身がリフレッシュしてきました。また、普段何気なく通り過ぎていたところでおもしろいお店をいくつか発見。財布の中は寂しくはありませんでした。」

○考えるきっかけ・認識の変化

「交通量の緩和と安全を考えるとあらためて車通勤の不具合などを感じました。地域の方々とも挨拶がかわせる瞬間も生まれ、活き活きとした通勤となりました。」

「通勤時に適度な運動をすることで、午前中の業務効率が上がったように感じる。今後も引き続き自転車通勤を継続したい。」

「自転車での通勤途中、シルバー世代の方が交通整理を行っている姿を見て地域で安心・安全のために自分でもできることはたくさんあると再認識した。」

4. 考察・今後の課題

【H27実施結果のまとめ】

- 趣旨説明資料を用いた事業所訪問、参加しやすさ(web・紙面併用)、デザインの見直し等により参加者数が増加
- 主に自転車(若干鉄道・徒歩)で参加
- 健康改善・CSR活動・仕事効率化が主に実感
- 継続により感じる意義の変化、やってみて気づくことがある
- 普段の自分の行動やまちを客観的に意識する機会にもなっている

【H28の実施方針】

- H27の成果を踏まえて、参加・実施をさらに広げる
⇒参加者を3,700から5,000人へ
⇒参加者の実施報告を簡素化
⇒より丁寧な情報発信・コミュニケーション
- 交通面での成果を把握する
⇒具体的な交差点等を設定し、効果を見える化
- 各関係機関との連携を図る